



## 日本癌病態治療研究会 会長 就任にあたって

日本癌病態治療研究会 会長  
東海大学医学部 消化器外科 生越 喬二

本研究会は、1991年12月14日に現名誉会長の磯野可一先生により、癌患者個人個人の最適な治療法の確立を目指し、患者のQOLを向上させることを目的として設立されました。発足とともに、英文誌（Annals of Cancer Research and Therapy）、和文誌（W'Waves）を発行し、班研究、奨励研究などを奨励し、1998年からは、World Federation of Surgical Oncology Society（WFSOS）の日本で唯一のメンバーとなり、国際的な視野を持つユニークな研究会であります。1992年4月24日に第1回学術研究会が開催され、本年で15回の開催を迎えることができましたことは、偏に、会員一同のご協力の賜物であると感謝しております。昨今、わが国では、『・・・研究会』が単に名称のみを『・・・学会』に変える研究会が増えています。学会および研究会の独自性が問われている時代であると考えています。

日本癌病態治療研究会では、新しい試みとして、まず、Editor-in-Chiefを日比紀文先生にお願いして、英文誌（Annals of Cancer Research and Therapy）をOn Line Journalといたしました。Acceptから4週間以内に公表することで、国内外のpreliminaryな研究発表を促進したいと思います。日本からの若手の研究者には是非利用していただきたいと思っております。二つ目は、奨励研究を、研究会学術講演会で会員の前で発表していただき評価課題選定委員会委員に評価していただき、決定することにいたしました。会員に開かれた評価を目指したいと思います。三つ目は、評価課題選定委員会の委員の先生方には学術講演会プログラム委員として兼務していただき、今後2、3回継続したテーマをシンポジウムとして取り上げることを企画していただきたいと思っております。第15回日本癌病態治療研究会では、プログラム委員会推薦演題として、シンポジウム①：癌患者の病態：—栄養、疼痛、免疫—（一部公募）ということになり、16回、17回学術講演会まで継続することになっております。

いずれにしても、会員の先生方に本研究会の存在意義は何かを考えていただき、会員の先生方とよく議論しながら、将来に向けての実りある研究会となるよう誠心誠意努力することを申し述べましてご挨拶とさせていただきます。